

震災後の子どもたち(11)

わすれないあなたのことを

わすれないあなたのことを

森谷 恭子



はじめに

表題の言葉はこの度の大震災で亡くなつた園児三人の名前と共に、忘れられない悲しい出来事を何時までも語り継いでいきたいと、記念の碑に刻まれているのです。

高さ五メートルの石垣が崩壊し修復された園庭の一角に、幼稚園が大好きだったMちゃんのご両親が思いを込めて建てられました。周りの花壇は職員の手作りで、季節の花が咲いています。毎月十七日にはご両親、孫の成長を楽しみにしておられた祖父母様や知人の方々が花を手に訪れられま



す。

一年半が過ぎる七月十七日には、友だちのT



▲記念の碑に石を献じて（一人一人絵を描いて）



▲記念の碑に刻まれたことば

ちゃんと親子も久し振りにたずねてくれました。次の日の朝、みんなの思いを感じながら碑の前に佇

んでいると、私の後ろに園児が二人静かに立つています。一緒に碑を見ながら、十七日が毎月巡つて来ること、Mちゃんに会いに来られる方のこと話をしました。幼い心に滲みこんでいくものを、だまつてうなずく姿に感じとりました。

### 楽しさ広がる芦屋川

幼稚園から徒歩一分程の所に芦屋川があり、四季の自然に触れる楽しい遊びの場所として、園庭の延長のようにして足繁く通っていました。園児たちが成長した時、幼児期の体験がなつかしくよみがえってくる心のあるさとのようになることを願っているのです。感じる心、生きる知恵までも育つ素敵な環境です。

芦屋川は、地震で護岸の石垣や柵が崩れてしまい無残な姿になりましたが、川岸に続く松並木はびくともせず、年輪を重ねたたくましい力を空に向かって広げていて、根を張つて育つ力の強さを

震えるような思いで眺めたのを思い出します。少し川上へ進むと桜並木に変わるのでですが、春、蓄の紅色の初々しさに命のほとばしりを感じました。そして、淡い色の花が重なり合い寄り合つて満開になった時、巡る季節に出合えたことと、帰らぬ命への思いと、涙が流れて止まらなかつたことも忘れられません。

川の修復工事が進められていましたが、ようやく今年六月に河川敷へも降りられるようになり、待ち兼ねたように遊びに出掛けました。

虫の好きな子はよもぎの葉を這うてんとうむしに目を凝らし、もんじろ蝶を追つ掛けて走り、ピーピーと鳴るからすのえんどうを探し、クロバーの冠作りを教わり、高い石垣から飛び降り、友達と手をつないでいることだけが楽しい子どももいて、それぞれが楽しんでいます。帰り道に「先生、芦屋川つて楽しいね。虫もお花もいっぱいだから」と話してくれた子に、芦屋川大好きの

気持ちをうれしく思いました。

暑い日が続くようになると、今度は流れの中で



▲芦屋川で水とたわむれて遊ぶ子ら

水遊びです。虫の好きな子はやはりあめんぼうさがしに夢中です。木の葉をくるりと巻いて舟を作り、流れる速さやよどみに集まる様子に歎声をあげたり、友達と手をつないで流れに逆らって進んだり、回を重ねると自分たちの楽しい場所へ一直線です。流れに用心深くこわごわ足を運ぶ子はそつと手を添えて一緒に歩くと、安堵の顔になつていく様子もほほえましくなります。担任からの報告にも「友達との関わりが自然に広がり、虫やかにに輝く目がまぶしい」とあります。保護者にも、川遊びを楽しむ子どもの姿をせつせと紹介しています。

### 「命」語り継ぎたい

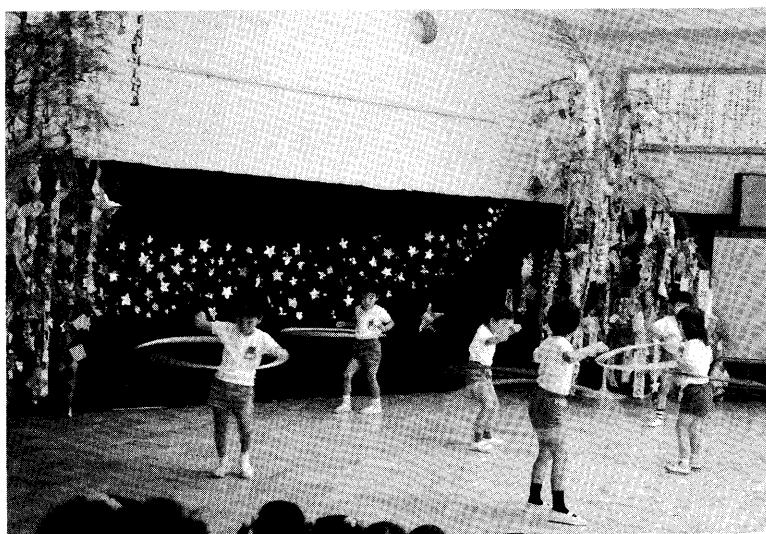
地震で亡くなつたMちゃんの家の庭に花や野菜が育ち、美しいものや優しい気持ちを大切にしておられました。たくさん芽が出たのでとえんどうの苗が届き、保育室の前で育て実が採れてみんな

で分け合って食べました。種用に残したえんどうは、地震の後、Mちゃんのいない家で再び発芽して苗が幼稚園に帰つて来ました。お父さんが、

「Mのえんどうを育ててください」と園児に話され、一人の子が「はい、わかりました」と答えました。えんどうが再び実り茹でて食べた時、「Mちゃんが応援してくれたから」とがんばって食べる子もいて、Mちゃんはずつとクラスの友達です。

震災で兄を亡くしたUちゃんの家庭に五月、男の子が誕生しました。若い夫婦が悲しみから立ち上がる姿を感じうれしい思いでした。出産が早くなりそうだと聞き今日か今日かと待っていました。ある朝Uちゃんが「生まれた」と行つたので、側で聞いていた友達のお母さんが「今日はUちゃんの家は、お弁当が作れないから私が代わつて作つて来ましょか」と申し出があつたのです。「今日ぐらいかも……」が「……生まれた」

▼七夕のつどい フープの遊び



になつたのでしようが、まわりを喜びにつつんでくれた弟Dちゃんに、待ち望んでいた家族の気持ちを語る日が来るだらうと、すやすやと眠る小さな命に拍手を送りたい気持ちです。

### 七夕の集いに願いをこめて

保護者も参加し、地域の小さい友達“ひよこグループ”も誘つて七夕の集いをすることにしました。おばあさんやおじいさんもお招きすると普段の三倍もの人数に膨らみました。ホールで好きな遊びに取り組んでいる様子を参観していただく中で、その子らしさや楽しさが感じられる遊びの場になり、友達と共に育つ姿を理解していく機会になりました。工夫のある絵本づくり、アーブルまわしもいろいろあり、移動しながら、何本も合わせてなど、それぞれのいい笑顔が見られました。歌を歌い、仲良しあそびや手あそび、次々に遊びが続きました。

その後、両親、祖父母に、少子化の中の子育ての課題を話しましたが、参観した内容と合わせて反響も大きく、各家庭で子育てについて話し合う場になつたことを感じました。

参観者が笹につるしていくさつた短冊に

子よ孫よ 摂いて眺む 天の川

七夕様 孫と一緒に 祝ひます

次の世を 背負うべきわらべ 正しく伸びよ

とあるのが目がとまり、続く世代を家族の温もりの中で生きていくことがどんなに幸せかを、震災の痛手の大きさから、なお強く思います。

(名古屋市立精道幼稚園)